

# エフピコレポート2020



株式会社エフピコ

## エフピコは食品トレー・容器の製造・販売を通じて 人と人、人と社会、人と環境を繋ぎます

エフピコが展開する食品トレー・容器の製造・販売事業には、消費者・流通業者・販売業者と協働で実践する地上資源の循環型リサイクル活動や障がいのある人材を活かした事業などが組み込まれています。食品トレー・容器の活用により様々な食のシーンにおいて人と人を繋げるだけでなく、事業を通して人と社会、そして人と環境を繋げることにより、豊かさの創造と持続可能な社会の構築に貢献していくことを目指し、それらを一つひとつ実践しています。

## 食品トレー・容器の製造・販売事業におけるエフピコの 現場主義・顧客第一主義

人々のニーズや社会の価値観などに沿った真に有用な製品を生み出し続けることを目指し、エフピコは「現場主義」と「顧客第一主義」を貫くことを掲げています。食品トレー・容器が使用される現場、販売される現場、そして製造・保管・輸送・納品される現場において重要なことは何か、求められることは何かを考え続けることにより、たゆまぬ進歩を続けています。

## CONTENTS

- ◆ 企業プロフィール
- ◆ トップメッセージ
- ◆ ESGのエフピコ
  - E（環境）
  - S（社会）
  - G（ガバナンス）
- ◆ 特集：『改めて問う食品トレー・容器の有用性』
- ◆ エフピコのバリューチェーン
  - 調達
  - 製品開発
  - 製造
  - 物流
  - 販売
  - リサイクル
- ◆ データで見るエフピコ
- 第三者によるコメント

会社概要

商号 株式会社エフピコ  
 設立 1962年(昭和37年)7月  
 代表者 代表取締役社長 佐藤 守正  
 資本金 13,150百万円  
 社員数 885名(エフピコグループ：4,484名)  
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売  
 福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号  
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911  
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号  
 新宿オークタワー(総合受付36階)  
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



福山本社(広島県福山市) 東京本社(東京都新宿区)

ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

エフピコグループ会社

**製造**  
 株式会社エフピコ北海道  
 株式会社エフピコ山形  
 株式会社エフピコ茨城  
 株式会社エフピコ八千代  
 株式会社エフピコ下館  
 株式会社エフピコ筑西  
 株式会社エフピコ富山  
 株式会社エフピコ中部  
 株式会社エフピコ笠岡  
 株式会社エフピコ福山  
 株式会社エフピコ神辺  
 株式会社エフピコ九州

エフピコダックス株式会社  
 エフピコ愛バック株式会社  
 エフピコアルライト株式会社  
 エフピコグラビア株式会社  
 西日本ペットボトルリサイクル株式会社

**物流**  
 エフピコ物流株式会社  
 株式会社アイ・ロジック  
 エフピコイーストロジ株式会社  
 エフピコウエストロジ株式会社

**販売・その他**  
 エフピコ商事株式会社  
 エフピコチューバ株式会社  
 エフピコダイヤフーズ株式会社  
 エフピコインターバック株式会社  
 エフピコイシダ株式会社  
 エフピコ上田株式会社  
 エフピコみやこひも株式会社



生産工場、リサイクル工場、物流施設などが集積した拠点(左から福山、中部、関東)

主な製造・販売製品

**汎用** サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



エコトレー(リサイクル製品)

**鮮魚** 新鮮な海の幸の魅力を引き立てる



**寿司** 新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ



**米飯** サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



**精肉** 衛生的で肉の旨味や色味も引き立てる



**惣菜** 電子レンジ対応などで扱いやすい



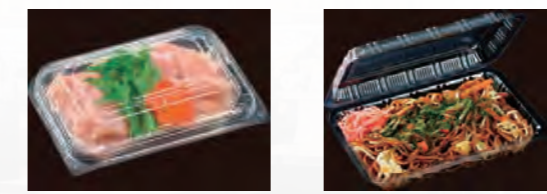
**クリアパッケージ** 透明な容器が鮮度も美味しさも伝える



**催事** 人が集まる楽しい催事に最適



**フードパック** “生から惣菜”など便利さを追求



**その他** 紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など



事業の運営とESG経営が表裏一体で進むのが  
エフピコの事業経営スタイル。

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを通じて  
社会全体で価値創造を展開しています。

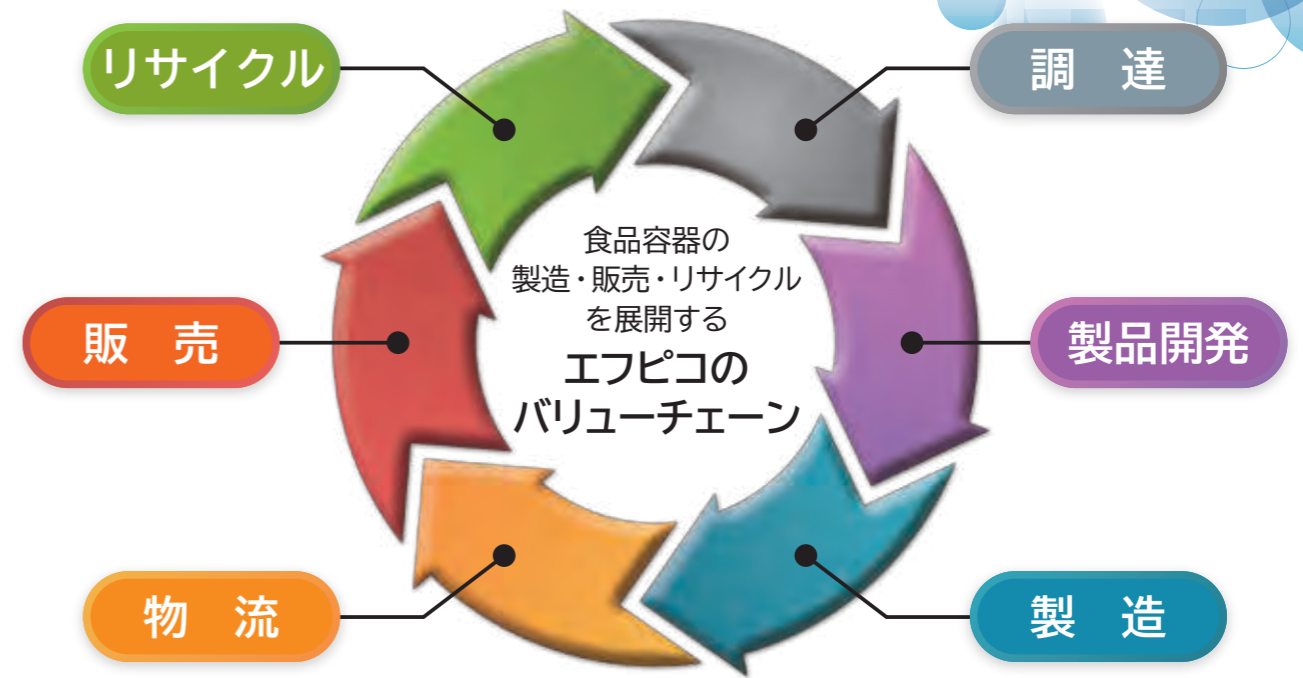


代表取締役社長  
佐藤 守正

一昨年、10兆円を超えた中食マーケットは、大手外食チェーンのみならず中小のレストランのテイクアウトやデリバリー参入などによりさらに拡大しています。こうした状況下で安全・安心な食をお届けする食品トレー・容器の需要はますます高まっており、その製造・販売を行っているエフピコの社会的責務を痛感しています。

エフピコは安全・安心な食品トレー・容器の安定供給はもとより、様々な社会的価値を提供しています。食品トレー・容器には多種多様な有用性・利便性があります。スーパーマーケットなど食品販売者の方々には盛付け、蓋閉め、陳列などの作業の効率化などを、消費者の方々に対しては食品の衛生管理、鮮度保持とそれによる食品ロス低減、家事時短などを食品トレー・容器で実現することができます。そして使用済み製品を回収してリサイクルすることで環境負荷低減も行っています。こうした社会的価値をエフピコのバリューチェーンで生み出しています。

このように事業の運営とESG経営が表裏一体で進んで行くのがエフピコの事業経営スタイルです。事業を通じて価値創造を続けていくことが私たちの使命であると考えています。



エフピコは製品のあらゆる側面での付加価値の創造を行っています

●環境負荷低減のバリューチェーン

エフピコは1992年に環境対応の「エコトレイ」（発泡トレイ）の販売をスタートしました。そして2007年には透明容器の回収を始め、さらに2012年には使用済みPETボトルをリサイクルした素材として製品化した「エコAPET」（透明容器）を上市しました。このように使用済み製品やPETボトルを製品の素材として調達し、環境負荷低減のシステムを構築しています。またエフピコが自社物流を展開していることも循環の輪を回す大きな原動力となっています。製品を配送した後の空になったトラックに使用済み容器を積んで帰ることができるのは、自社で物流計画を立てることが可能だからなのです。



●付加価値の高い製品を提供するバリューチェーン

エフピコが循環させるもうひとつのバリューチェーンは、製品の付加価値を生み出す創造力の輪です。衛生的、耐熱・耐寒・耐油、販売オペレーションのし易さ、食品ロス軽減、CO<sub>2</sub>削減など食品トレー・容器の持つ有用性を生み出し続けるため、バリューチェーンを構成する6つの部門がそれぞれにアイデアを出し合い、それを製品開発部門が形にするという作業を続けています。食品販売の現場に接することの多い販売部門だけでなく、製品開発には関係ないと思えるような物流部門からも、例えば製品積載時の効率化をアップする製品形状の提案などが出されるのがエフピコの特徴です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

これら2つのバリューチェーンから生み出される社会的価値は、国連が提唱するSDGsにも寄与しています。





## 環境への取組み

- グループ全体での環境への取組み
- リサイクル事業によるCO<sub>2</sub>削減の成果
- リサイクル拡大のための様々なPR活動
- 海洋プラスチックごみ問題への取組み
- 地球環境保全に向けた取組みへの積極的な参画
- 気候変動対応に関する情報開示



## 企業市民の一人として

- 人財としての障がい者の雇用
- インクルージョン社会実現にむけた活動
- 障がい者雇用サポート
- 多種多様な分野におけるコミュニティ参画



## 組織ガバナンス

- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 人材マネジメント



環境・社会・企業統治 (ESG) に対して優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを反映するインデックス

ESG指数「FTSE4Good Index Series」及び「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初選定されました。(2019年6月)



世界の**1,034**社の中の1社がエフピコ



日本の**179**社の中の1社がエフピコ

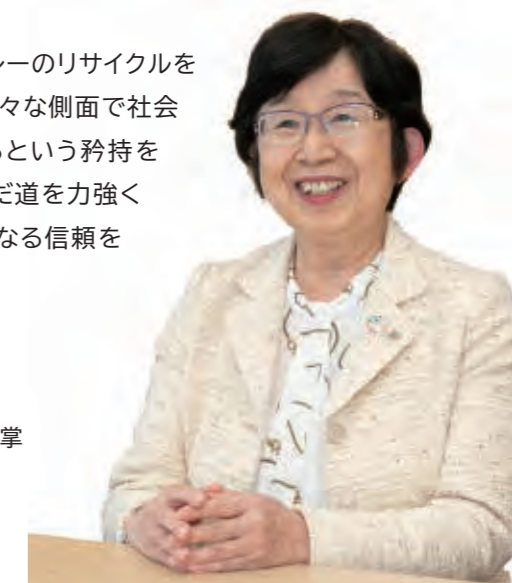
第1回ジャパントイムズESGアワード ESG部門優秀賞 (2019年9月)



エフピコが障がい者雇用を始めたのは1986年、使用済み食品トレーのリサイクルを始めたのが1990年でした。以来、目先の利益だけにとらわれず様々な側面で社会に対して価値を創造する活動を行うことが会社の発展につながるという矜持をもって進んできました。そして今後も、私たちは先人から引き継いだ道を力強く歩み続けるために、組織ガバナンスに一層力を注ぎ、社会からさらなる信頼を得ることができるよう努力を重ねてまいります。

常務取締役  
総務人事本部管掌  
兼 特例子会社・就労継続支援A型事業管掌  
兼 環境対策室管掌  
兼 法務・コンプライアンス統括室管掌

西村 公子





# Environment

環境への取組み



1990年に福山市内のスーパーマーケットに最初の回収ボックスを設置して以来、30年で全国に約9,400カ所の使用済み食品トレー・容器回収拠点を設置するまでになりました。たくさんの方々からの賛同を得て構築したこの「エフピコ方式リサイクル」のシステムが今日も製品リサイクルの輪を回しています。

リサイクル拠点  
**9,390**カ所  
スーパーマーケット等  
の回収場所数

使用済み製品をリサイクルした“エコトレー”と“エコAPET・エコOPET”の販売により大きなCO<sub>2</sub>排出削減効果が得られています。これらの環境対応製品はバージン原料を使用した製品とまったく同じ機能を持っています。お客様であるスーパーマーケット様にも環境対応製品の購入をお薦めしています。

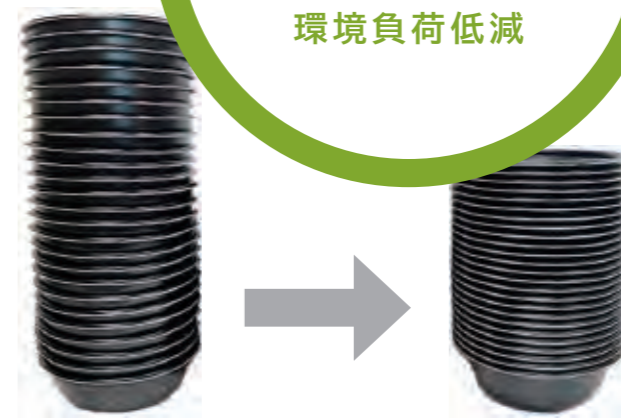
CO<sub>2</sub>削減  
**約16万トン**  
エコ製品による  
年間CO<sub>2</sub>削減量



軽量化  
**3分の1**  
素材変更や薄肉化  
などの工夫

軽量化や薄肉化により使用する原料を少なくするなど、いかにして製品そのものの環境負荷を減らすかを常に考えています。そのための素材の研究開発、デザインの創意工夫、素材と使用目的の組合せの試行錯誤などの探求を継続しています。

ロースタック化  
**約45%**  
保管、梱包、運搬の  
環境負荷低減



ほんの少しの工夫や考え方を变えることで、同じ空間により多くの製品を積載することが可能となります。倉庫業と運送業の両方の物流事業を自社で展開するエフピコならではの環境負荷低減施策です。

継続的な  
社会的評価と  
各種認定



環境保全と企業の根幹をなす活動の二つを切り離すことなくひとつの大きな事業の柱として展開しています。

## グループ全体での環境への取組み

### エフピコの環境方針

#### 基本理念

当社は地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

#### 方針

- CO<sub>2</sub>削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器を食品容器に再生利用する「エフピコ方式」のリサイクル事業を積極的に拡大し推進する。
- 当社に対する法的要求事項等を順守すると共に、ステークホルダーのニーズや期待を理解し、運用に際しては自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 環境に影響を与える活動・製品・サービスを考慮した環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査やトップマネジメントによる見直しを通じて評価し、継続的改善を行う。
- 効率的な水の利用により、水資源の使用量削減を推進する。
- 化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。

### 環境保全に向けた活動の概要

エフピコグループでは気候変動対策が経営の根幹を成すもののひとつと考え、環境経営計画「エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)」において、製品・生産・物流・販売・オフィスの各部門にワーキンググループを設置し、主体的に様々な目標を立てて活動を実施し、エフピコグループトータルでのCO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みを行っています。ワーキンググループは情報交換と協働を繰り返し、相乗効果により大きな成果を目指しています。

#### <投資プロセスでの目標>

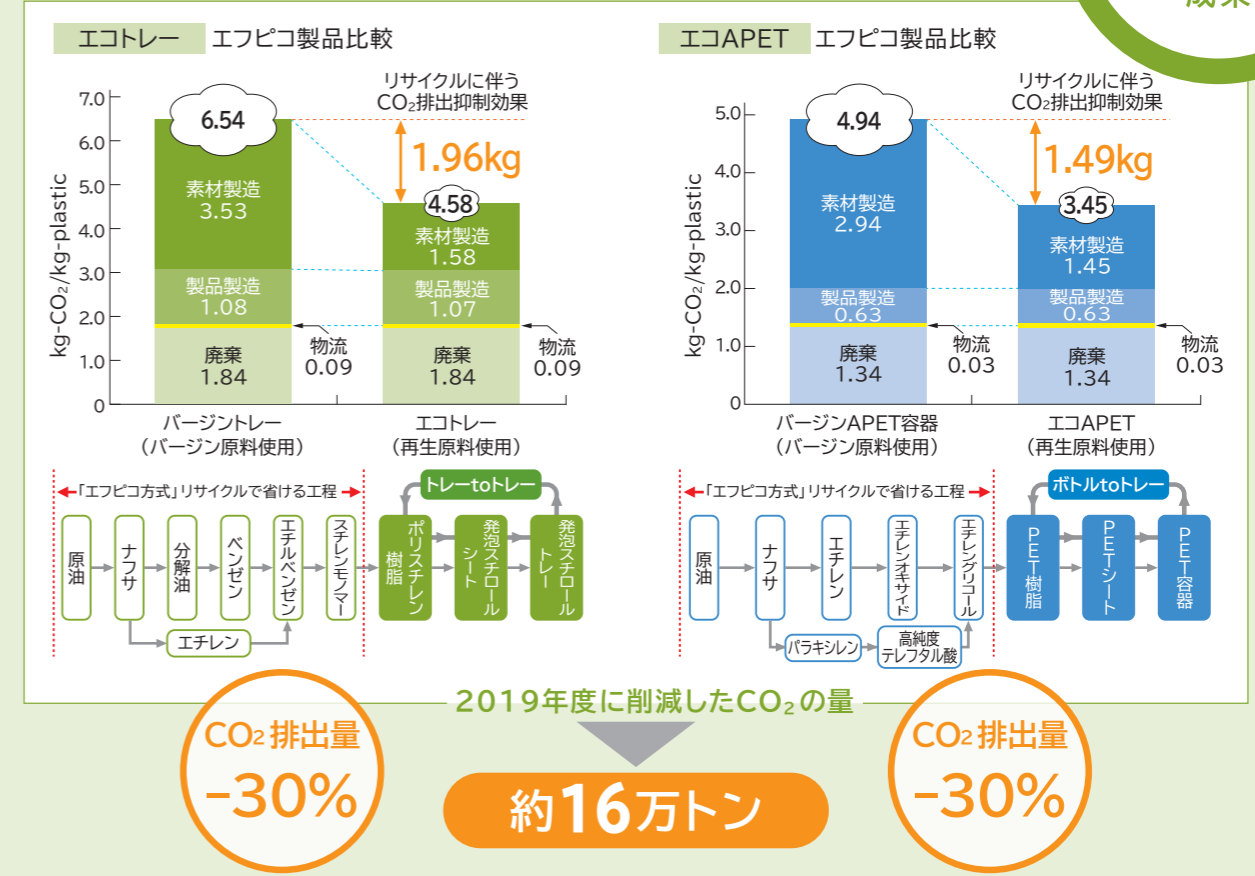
- 照明設備・・・省エネ蛍光球やLED灯の更新及び導入等
- 空調設備・・・空調設備更新、インバーター制御装置取付等
- 素材開発・・・CO<sub>2</sub>排出の少ない樹脂研究等
- 生産及びリサイクル設備・・・リサイクル工場の増設、高効率エネルギーラインの導入等

#### <運営プロセスでの目標>

- 照明設備 (照明点灯時間の見直し/不要照明の消灯/照度の見直し)
- 空調設備 (適正温度運転/不要空調の停止/空調機、換気扇等の清掃)
- 製品開発 (製品の軽量化、薄肉化の研究/再生樹脂を使用した製品の販売量拡大)
- 生産設備 (効率的な生産プロセスの検討/再生原料調達拡大)

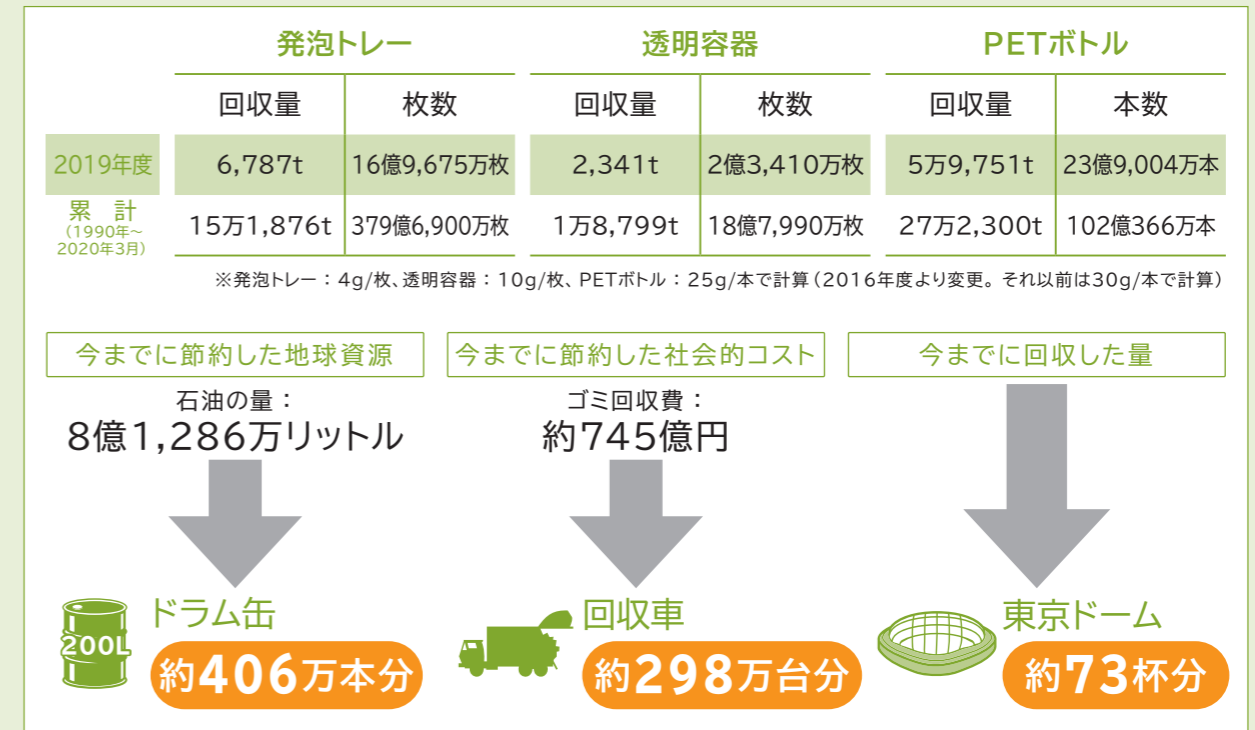
## リサイクル事業によるCO<sub>2</sub>削減の成果

### バージン製品とリサイクル製品のCO<sub>2</sub>排出比較



2019年度に削減したCO<sub>2</sub>の量  
**CO<sub>2</sub>排出量 -30%**  
**約16万トン**  
**CO<sub>2</sub>排出量 -30%**

### リサイクル事業の社会的な成果



リサイクル  
拡大のための  
様々なPR活動

地球環境  
保全に向けた  
取組みへの  
積極的な参画

## リサイクル工場の見学受け入れ

エフピコでは関東（茨城県）、中部（岐阜県）、福山（広島県）の3カ所のリサイクル工場と使用済み食品トレー・容器を選別する全国6カ所の選別センターで見学を受け付けています。一般の方、消費者団体、自治体やマスメディアなど年間約2万人の様々な方々にお越しいただいています。



## スーパーマーケット様との協働

### ●エコステーションの設置

食品トレー・容器だけでなく牛乳パックやPETボトルなど様々な使用済み製品を持ち込むコーナーとしてのエコステーションを店舗敷地内に設置するためのサポートをしています。



### ●店舗内でのPR活動

店舗内の空きスペースを利用してリサイクル活動のPRをさせていただいています。小さいお子様も参加できるプログラムなども用意し、楽しく情報発信を行っています。



### ●工場見学会

スーパーマーケット様主催による消費者の方々を対象とした工場見学イベントにエフピコのリサイクル工場をご利用いただいています。

### ●使用済み食品トレー・容器回収地点での各種PR

回収ボックスを設置している場所においてリサイクル啓発ポスターやモニターでの映像放映などでPRを行っています。

海洋プラスチック  
ごみ問題への  
取組み

## 「プラスチック資源循環戦略」への対応

経済産業省	2019年1月に設立された「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)」に幹事会社として設立当初から参画しており、技術部会の副部長会社としてエフピコのリサイクル技術のみならず、新素材や代替素材の開発に関しても業界のトップランナーとしての責任を果たしてまいります。	
環境省	プラスチックの排出抑制や分別回収の徹底など、「プラスチックとの賢い付き合い方」を全国的に推進し、その取組みを国内外に発信していくキャンペーンの「プラスチックスマート」HPIに、「トレー to トレー」「ボトル to トレー」の取組みを掲載しています。	
農林水産省	プラスチック資源循環の問題への対応を国民の理解を得ながら促進する一環として、農林水産・食品産業の業界団体・企業から、プラスチック資源循環に資する自主的取組みを広く募集している農林水産省のHP「プラスチック資源循環アクション宣言」に、プラスチック資源循環に資する自主的な取組みとして「エフピコ方式のリサイクル」を掲載しています。	
エフピコ	海洋プラスチックごみ問題等の環境問題解決は、各企業・団体が丸ごとになって対処すべき課題であるとの考えから、エフピコ環境基金を創設し、環境保全をテーマに活動するNPO団体等へ助成することといたしました。	

## 2019年度に参画した各種イベントなど

### 「G20イノベーション展」出展

2019年6月14日～16日、G20に合わせて長野県軽井沢町で開催された「G20イノベーション展」の「海洋プラスチックごみ対策」ゾーンに出展しました。エフピコの取組みやリサイクル工場をVR体験できる展示は、海外からの要人の方々にも興味を持ってご覧いただきました。



### 「第1回クリーン・オーシャン・マテリアルアライアンス (CLOMA) フォーラム」参加

2019年7月8日、海洋プラスチックごみの解決に向けた情報交換を目的とした「CLOMAフォーラム」が開催され、弊社常務取締役の西村公子が登壇。エフピコグループの環境への取組みを紹介しました。



### 「気候変動アクションサミット」参加

2019年10月12日、弊社の社外取締役である末吉氏が代表を務める「気候変動イニシアティブ」主催の「気候変動アクション日本サミット」が開催されました。当日は「脱炭素化」を目指す世界の最前線に日本が参加する宣言が発表されましたが、エフピコもこの宣言のメンバーとして参加しています。



## TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)※に対する取組み状況

エフピコは、気候変動が事業活動に影響を与える環境課題であると認識しています。調達先や製品及び商品の販売先等のステークホルダーと協働して、低炭素社会の実現をめざし気候変動の課題に取り組むとともに、今後、気候変動関連の情報開示を段階的に充実させ、TCFDへの賛同を検討してまいります。

※TCFDは2017年6月に最終報告書を公表し、企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会に関する項目について開示することを推奨

TCFD開示推奨項目	エフピコの対応状況
ガバナンス 気候変動のリスクと機会に係る組織のガバナンス	社長直轄の環境に関連する専門組織である環境対策室が、CO <sub>2</sub> 削減に寄与する環境配慮製品の販売状況や回収リサイクルの進捗状況について毎月モニタリングを行っており、環境対策室常務取締役が気候変動関連課題の管理に責任を負っています。
戦略 気候関連のリスクと機会がもたらす組織の事業、戦略、財務計画への現在及び潜在的な影響	気候関連の移行リスク・物理的リスク・機会について、リスク及び機会の分類、内容、可能性、影響の程度、財務上の影響を試算しており、以下のようなリスク及び機会の原因情報について整理しています。 ①気候変動に関連する生産、物流に対する法規制 ②気候変動に関連する当社製品に対する法規制 ③気候変動に関連する当社製品の競合サービス(トレーの不買運動など) ④消費者選好の変化(リサイクル容器への選好、トレーを使用しない販売への選好) ⑤高波や集中豪雨、地震などによる生産拠点への物理的影響の原因となる気候情報 ⑥海洋プラスチックごみ問題への対応
リスク管理 気候関連リスクについて、識別、評価、管理するために用いるプロセス	市場調査は営業部門、規制は環境部門等それぞれの分野で情報収集の把握体制を確立させており、重要事項は各部門の担当役員が揃う週一回の役員会で報告・共有されます。評価リスクは主に財務面へのインパクトであり、コスト増、収益減など、財務へのインパクトが大きいものを重視し評価しております。
指標と目標 気候関連のリスクと機会を評価及び管理するために用いる指標と目標	ライフサイクル全体のCO <sub>2</sub> 排出量が30%低減されるエコ製品(エコトレー、エコAPET、エコPET)の販売量を指標としております。

気候変動  
対応に関する  
情報開示





# Society

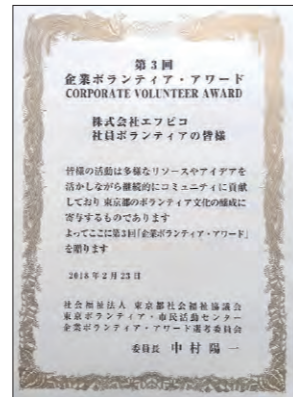
企業市民の一人として



34年にわたり障がいのある社員の雇用を続けてきました。  
“経営として成り立つ”雇用を実践することで“働いて生きる”  
という当たり前を実現しています。

社会貢献、経営  
など様々な分野  
での社会的評価

障がいのある社員とない社員  
が同じ目標に向かって一緒に  
働く、それがいつもの職場の  
風景です。



女性の活躍  
総合職採用**30%**以上、  
(2019年以降)  
女性管理職**50名**  
(2022年までに)  
を目指す



障がい者  
雇用率  
**13.3%**  
製品製造とリサイクル  
事業に従事

地域のお祭り、全国で開催される環境やビジネスを  
テーマとした展示会、学生インターンシップや小学校  
の教員研修の受け入れなど社会全般とのコミュニ  
ケーションと社会貢献は事業内容に関わる内容の  
ものがほとんどです。社会活動が事業の展開とほぼ  
イコールというスタイルはここでも変わりません。

各種イベント・  
地域プログラム  
への参加  
年間約**100**件



人財としての  
障がい者の  
雇用

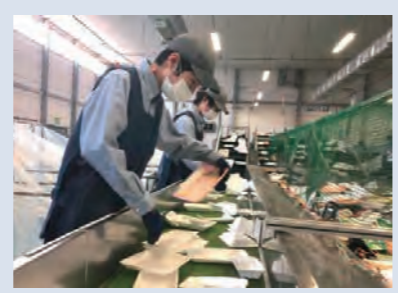
2020年3月時点

障がいのある社員数	358名
内訳	身体障がい 37名(うち重度16名) 知的障がい 316名(うち重度 <sup>(注1)</sup> 243名) 精神障がい 5名
雇用率換算数 <sup>(注2)</sup>	615名
障がい者雇用率	13.3%

(注1) 職業判定上の重度を含む  
(注2) 重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人数



容器製造事業  
ウッド製品と呼ばれる高級弁当用の容器組立て作業など。



リサイクル事業  
スーパーマーケット等で回収された使用済み食品トレー・容器の選別作業。

障がいのある社員を戦力として雇用

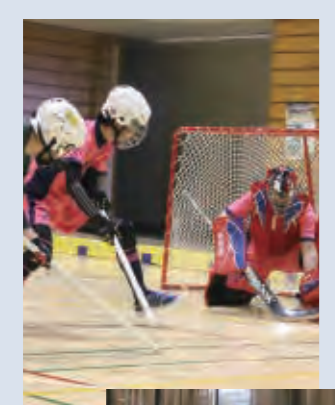
エフピコが障がいのある社員を雇用し始めたのは1986年でした。

以来、担当する業務の内容や規模も拡大し、現在ではエフピコダックス株式会社とエフピコ愛パック株式会社との2つのグループ会社を中心に障がいのある社員約360人が戦力として働いています。担当業務は大きく分けて2種類。大きな生産工場には適さない小ロット製品や手作業が必要となる付加価値の高い製品の製造、そして使用済み食品トレー・容器のリサイクル工程で必要となる手作業の選別です。高い集中力が必要とされるこれらの現場において障がいのある社員の能力が活かされています。



インクルージョン  
社会実現に  
むけた活動

ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーをエンジョイ!



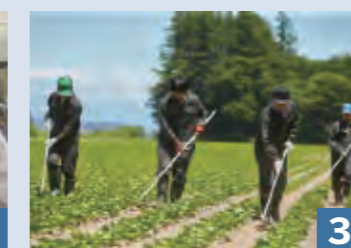
エフピコは2010年からグループ会社全体でフロアホッケー活動を行っています。フロアホッケーは障がいのあるなしや年齢、性別に関わらず誰もが一緒にプレーできるユニバーサルスポーツ。現在ではエフピコグループの社員約600名(障がいのある社員約200名、障がいのない社員約400名)が全国9つのエリアで活動しています。また各地で開催されている大会の冠スポンサーにもなってフロアホッケーの普及にも力を注いでいます。大会ではエフピコグループ社員が運営のボランティアスタッフを務めるなど、フロアホッケーに積極的に関わっていくことで、インクルージョン社会の実現に少しでも貢献できればと考えています。



障がい者  
雇用サポート

お取引様の障がい者雇用をサポート

エフピコではお取引様からの相談があった場合、可能な限り障がい者雇用のノウハウをお伝えして少しでも多くの障がい者が“働いて生きる”という当たり前の生活が実現できるよう雇用のサポートを行っています。これまでに50事業所、667人(2020年3月時点)の障がい者の働く機会が生まれました。



- 1 果物の検品・計量
- 2 農産品の加工
- 3 農業生産
- 4 精肉の下味付け

福山市新総合体育館のネーミングライツを取得

2019年5月24日、福山市役所にて行われた締結式によりエフピコが2020年3月にオープンする福山市総合体育館のネーミングライツを取得しました。改築後の名称は「エフピコアリーナふくやま」となり、今まで通り福山市民のスポーツや文化の活動・情報発信の場、憩いの場として活用されます。



2019年度も多くのイベントや各種プログラムに参画

エフピコが参加するイベント等は地域のお祭り、環境やビジネスをテーマとした展示会など様々です。また学生インターンシップや小学校の教員研修を受け入れたり、社会とのコミュニケーション方法も多岐にわたっています。これら多くのエフピコのPRよりも社会貢献が参加の目的となっています。



日付	イベント名	開催地	主催
2019/4/14	みんなで津の海岸を大掃除	三重県	三重県生涯学習センター
2019/5/28	福山ばら祭2019	広島県	福山市
2019/6/1	2019八王子環境フェスティバル	東京都	八王子市
2019/6/14~16	G20イノベーション展	長野県	経済産業省、環境省
2019/8/18	エコワールドフェス	大阪府	おおさかATCグリーンエコプラザ
2019/9/5	ベスプライントロセミナー	東京都	CLOMA
2019/9/8	やすぎ環境フェア2019	島根県	安来市
2019/9/28	2019ふくやまサイエンスフェスティバル	広島県	福山市立大学
2019/10/5	いたみ環境&リサイクル・フェア2019	兵庫県	伊丹市
2019/10/9~11	エコテクノ2019	福岡県	福岡県/北九州市/(公財)北九州観光コンベンション協会
2019/10/29~11/1	JAPAN PACK 2019	東京都	一般社団法人 日本包装機械工業会
2019/11/26~28	エコプロ2019	東京都	(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
2019/11/4	大阪ATCこどもエコクラブ交流会	大阪府	おおさかATCグリーンエコプラザ
2019/11/16~17	じばさんフェア2019 一見再発見! びんこのものづくり	広島県	一般社団法人 備後地域地場産業振興センター
2019/11/23	クリーン&サンフレッチェ2019	広島県	ひろしま地球環境フォーラム
2019/11/30~12/1	ながさきエコライフ・フェスタ2019	長崎県	長崎市役所

多種多様な  
分野における  
コミュニティ  
参画



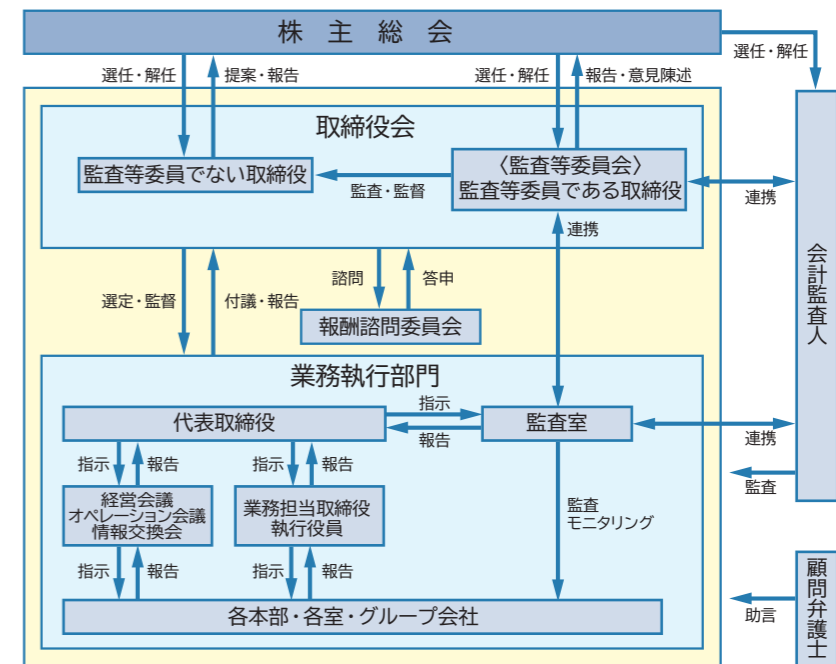
# Governance

## 組織ガバナンス



### 監査等委員会 設置会社を 選択した 透明性の高い 組織運営

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営の意思決定の迅速化と並行して取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。そのための手段として監査等委員会設置会社を選択し、独立社外取締役及び社外取締役で構成される監査等委員会が経営監視を行う透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。



全てのステークホルダーから信頼される会社であるための多面的なガバナンスに務めています。

### コンプライアンス

- 法務・コンプライアンス統括室による各種教育プログラムの実施。
- 独立した社長直轄の監査室による内部監査の実施。
- 社内と社外に設置したパワハラやセクハラなどの職場相談窓口。

### リスクマネジメント

- 製品の品質に関わるリスクへの対応。
- 近年多発する自然災害時や非常時対策の実施。
- 情報漏洩などのセキュリティ対策プログラムの実施。

### 人材マネジメント

- 新人育成のための研修プログラムの実施。
- 管理職候補者のための研修プログラムの実施。
- 専門性の高い実務のスキルアップのためのプログラム。
- ESGやSDGsなど企業価値創造のためのプログラムの実施。

## コンプライアンス

### コンプライアンス実行組織

- 業務執行部門とは独立した社長直轄の監査室が1年に1回内部監査を実施。
- パワハラやセクハラなどの相談先としての社内の職場相談窓口のほか弁護士事務所による外部ヘルプラインの設置。
- 法務・コンプライアンス統括室による契約等の精査、コンプライアンス情報の周知。

### コンプライアンス浸透プログラム

- 社員がどのように行動すべきか示した「エフピコグループ行動憲章」の設定。
- 「エフピコグループ行動憲章」の精神に則った「エフピココンプライアンス行動規範」の制定。
- 上記行動準則を社内ネットワークなど社員が随時確認できる環境を整備。
- 社員を対象としたグループ横断した研修の開催。
- 毎月の「コンプライアンス便り」の発行。

### 製品の品質に関わるリスクへの対応



- 「お客様の満足度を第一に、環境に優しく安全・安心して使用頂ける、製品作りを目指します」との品質方針を実行・維持・継続するため様々な施策を行っています。
- 生産工場では、食品安全管理の認証であるFSSC22000認証を、2020年3月末時点で16工場において取得しており、今後主要21工場まで拡大いたします。

### 自然災害時・非常時対策

- 全社員携帯の「災害時用ハンドブック」、ヘルメットや救急用品などの緊急時対策備品、災害時に発動する安否確認システム、災害時優先電話の設置などの対策を講じています。
- 福山本社及び各地の物流拠点には非常用発電装置を配備し、72時間の電力供給を可能にしているほか、非常時対応用の外部データセンターを活用しています。



### 事故・危険防止・情報漏洩・セキュリティ対策

- 事故防止を目的とした部署やグループ会社の垣根を超えた安全衛生委員会の設置、生産・リサイクル工場における定期的な避難訓練、フォークリフト事故撲滅プロジェクトや移動式コンテナハウスを活用したVR危険体感、安全運転講習などによる安全教育などの対策を実施しています。
- 生産工場と物流センターなどが併設された大型複合施設におけるセキュリティゲートの設置、パソコンデータの定期的なバックアップ、回線の二重化、社外メール誤送信回避システム、専門業者によるPC廃棄などを実践しています。



## リスク マネジメント

## 人材 マネジメント



### 各種研修の実施

約半年間にわたって実施する「次世代研修」、新人の教育係としてのメンターを育成するための「マンツーマンリーダー研修会」、女性マネージャーと上司の相互理解を深めるための研修、管理職候補を対象とした研修、経理・財務に関する実務のスキルアップのための経理部研修、ESGやSDGsといった非財務活動による企業価値創造について勉強する環境関連研修会など人材を人財に変えるための様々な研修を行っています。

### 社内外交流による組織の活性化

“他社との交流を通じてものの見方・とらえ方を学ぶ”というテーマで開催する異業種企業との合同研修やグループ会社の社員と一緒にハワイ研修旅行など他者とのコミュニケーションで組織全体を活性化するプログラムも実施しています。



### 新型コロナウイルス感染症拡大防止

#### 《対策》

エフピコグループでは株式会社エフピコ代表取締役社長 佐藤守正を本部長とする「エフピコグループ新型コロナ感染症対策本部」を2020年2月21日に立ち上げ、検温・消毒・手洗いなどによるグループ内における感染症予防の徹底、政府機関・関係省庁などによる報道発表情報の収集、時差出勤やITを活用した在宅勤務などの施策を推進してきました。これからも気を抜くことなく必要な対策を講じてまいります。

#### 《食品容器供給責任の遂行》

新型コロナウイルス感染症拡大時においても食品を運び運ぶための食品トレー・容器の安定供給はエフピコに課せられた社会的責務ととらえています。常日頃から実践しているエフピコ独自のサプライチェーン・マネジメント・システムを着実に遂行し、皆様の安全・安心な食生活を支えるという使命感を持って日々の業務を行い、緊急時においても必要とされる製品を必要とされる時に確実にお届けいたします。

# ◆特集◆ 改めて問う 食品トレー・容器の有用性

食品トレー・容器を使うことが当たり前になった今、私たちは容器を使うことの意味を改めて考えてみる必要があります。食品容器メーカーとして、なぜこれほどまでに食品トレー・容器が毎日の生活に浸透したのかを改めて考察します。



現在、国内のコンビニエンスストアは約55,000店舗、スーパーマーケットは約22,000店舗。その他にもデパートの地下食品売り場や商店街の惣菜屋などがありますが、そのほとんど全てにおいて食品トレー・容器が使われ、食品を販売、購入、消費する方々のお役に立っています。

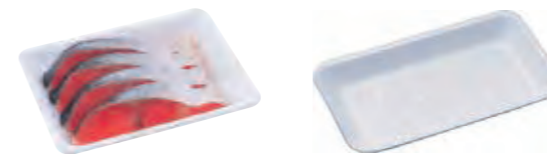
## 社会のニーズに応じてきた食品トレー・容器

社会構造の変化とともに変わるライフスタイルのニーズに合わせて食品トレー・容器も進化してきました。

### 経済の発展に伴う食の効果的な販売に対応

1960・70年代

高度成長期時代・スーパーマーケットの拡大



セルフサービスのための食品トレー

スーパーマーケットなどで食品を大量に販売するためのツールとしてのシンプルなトレーが求められました。

1980・90年代

バブル経済・コンビニエンスストアの発展・中食



弁当・惣菜販売のための容器

コンビニエンスストアで販売するための弁当容器や惣菜を入れるための蓋付き容器が必要となりました。

### ライフスタイルの変化に伴う食の多様化に対応

2000年代～現在

女性活躍による家事時間短縮・中食の増加



生から惣菜

詰め合わせされた生食材をそのままレンジアップすることができる、また購入した食材をそのまま温めることができる便利な容器が重宝されています。

グルメブーム・美味しさの追求



組合せメニュー

それぞれの味と美味しさを損なうことなく米飯とおかずを別々に入れるなど味のクオリティを追求した製品。

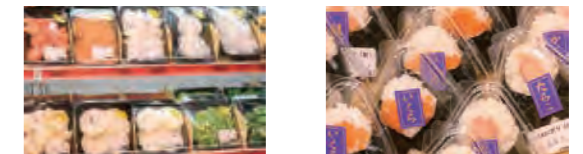
高い環境意識



環境対応リサイクル製品

エコトレー（発泡製品）やエコAPET・OPET（透明容器）など使用済み容器をリサイクルした製品がCO<sub>2</sub>削減で重要な役目を果たしています。

フードロス削減・単身世帯の増加と高齢化



個食用容器

一人暮らしの方の食生活に便利な容器や食べ残しを減らす工夫をした容器などが増えています。

## フードサプライチェーンに対応

現在では食の生産から流通、販売に至るまでほとんどのサプライチェーンで食品トレー・容器が必要となっています。

## 食品生産・輸送

魚介類を水揚げした後、市場で販売するまでの鮮度保持、型崩れしやすい野菜や果物などの農産物の収穫後の保管などに使用されます。

傷み防止

鮮度保持



## 食品加工・製造

大量に製造した食品を商品として販売しやすくするために小分けにし、賞味期限などの情報を貼付する上で食品トレー・容器は必須となっています。

小分け・商品化

情報表示

傷み防止

鮮度保持



## 陳列・販売



バックヤードで加工した食品をそのまま陳列することが可能。労働人口が減少し続けている現在において作業効率を高めています。

衛生的に商品を何段にも重ねることができ、たくさんの商品を陳列できます。商品を見やすく陳列することに便利です。

高い作業効率

衛生的

大量陳列が可能

見やすい陳列

情報表示

傷み防止

鮮度保持

エフピコは社会のニーズに応える形で時代ごとの人々の食生活に合致した有用性の高い食品トレー・容器を製造・販売してきました。高度成長期からバブル経済後のコンビニエンスストア隆盛期までは、求められるものが比較的明確だった時代が続いたと言えるでしょう。しかし2000年以降、食生活が多様化してくるとニーズに対する答えは決してひとつというわけではなくなり、こちらからも多種多様な答えを提案する時代が続いています。ひとつの提案に対して賛否があるケースもあるわけです。このような状況のなか、エフピコはお客様であるスーパーマーケット様や消費者の方々の声に耳を傾け、食品トレー・容器に関する正確な情報を発信しながら、より利便性や有用性の高い製品を提供することを信念として社会のお役に立ち続けたいと考えています。

常務取締役 特販営業統括部統括マネージャー  
兼 容器開発部管掌  
兼 ストア支援事業部管掌

岡 恒治



## 購入・持ち帰り・消費・リサイクル



持ち運びしやすい

衛生的

鮮度が確認できる

中身がずれない



保存に便利

環境にやさしい

スーパーマーケットやコンビニエンスストアでの普段の買い物において食品トレー・容器を使うことが当たり前になっているため、私たちはその便利さや有用性に気づかないで毎日を過ごしています。食品の新鮮さや美味しさを見極めて購入し、衛生的に持ち帰って必要なだけ消費して余った分は保存する。こうした当たり前のことを可能にしているのは食品トレー・容器です。さらにこの利便性を持続可能なものとするため、多くの方々の協力を得ながら使用済み製品をリサイクルしています。



# エフピコの バリューチェーン

社会的価値の創造を続け、事業の運営を“ESG経営”に近づけているのがエフピコのユニークなバリューチェーンです。

エフピコのサプライチェーンでは、その一連の流れの中に“製品リサイクル”、“自社物流”、“提案型販売”、“人財としての障がい者雇用”などの要素が加わり、サプライチェーンそのものを社会的な価値を生み出し続ける循環型のバリューチェーンへと変えています。

事業運営を展開することが社会的価値を生み出し続けるバリューチェーンを回すこと。この活動を発展させるために全てのエフピコグループ会社社員が日々努力を続けています。





## PROCUREMENT

# 調達

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開するエフピコのバリューチェーン

バリューチェーンの最初の工程となる調達では安全・安心なバージン素材に加え、エフピコが“地上資源”と呼ぶリサイクル工程で生み出す再生素材も使用します。

### エフピコCSR調達方針

#### 1. 品質本位

お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

#### 2. 公正な取引

経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

#### 3. 法令等遵守

調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

#### 4. 社会的課題への配慮

基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

#### 5. 環境への配慮

当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

#### 6. サプライヤーとの協働

調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

調達の工程において重要となるポイントは原料の安全・安心、安定供給、そして環境への配慮ですが、エフピコはこうした側面において着実に責務を果たしてきたと自負しています。しかし昨今社会環境は急激に変化してきており、先を見据えた計画と行動が常に必要となります。生分解やバイオマスプラスチック素材の採用を考慮するための海外の事例の情報収集、紙を素材とするまったく別方向の展開の模索、素材のリサイクルをさらに発展させるための新しいビジネスの枠組みの考慮など、バリューチェーンの出発点である調達部門が果たす役割は年々大きくなってきています。

取締役  
商事本部本部長

小川 浩嗣



使用済み製品を  
“地上資源”として  
原料調達に  
リサイクル活用



#### ●自社での原料調達を容易にするエフピコ独自の生産システム

リサイクルセンターを併設する関東、中部、福山の生産工場においては発泡素材容器からリサイクルしたフレーク（写真左上）と透明容器をリサイクルしたペレットを原料として生産工場棟へとパイプで空送しています。トラックでの輸送ではなく、ダイレクトな調達のルートを構築しているのです。こうしたシステムがエフピコの循環型バリューチェーンを文字通り完成させています。（右下はリサイクル素材から生産した透明容器用素材シートロール）

#### ●食品トレー・容器の原料としての安全性の確保

プラスチック製の食品トレー・容器は食品衛生法、食品安全基本法や業界での自主基準など安全に関する様々な基準が設けられています。エフピコでは国による法令・公的基準、より厳しい業界の自主基準、さらに自社基準の遵守によって食品容器の安全・衛生性を担保しています。「エコAPET」の再生原料プラントでは世界的安全基準であるFDA（米国食品医薬品局）のオブジェクションレター（NO OBJECTION LETTER: NOL）を取得しています。



製品の原料  
として安全・安心  
に使用できる  
ことを確保

#### ●新素材の研究開発

エフピコグループは単一素材においてリサイクルの技術と仕組みが確立していることからリサイクルの拡大を進めていますが、その一方で、技術は進歩するという前提のもと石油由来以外の原料の選択肢も考慮しています。紙やバイオマス等の素材の情報収集や各種リサイクル手法の調査研究を進めるとともに、環境配慮設計による業界トップクラスの環境負荷の低い容器の開発を通して、循環型社会の実現と持続可能な社会の構築を目指してまいります。



PRODUCT DEVELOPMENT

# 製品開発

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開する  
エフピコのバリューチェーン

素材、形状、細かい部分のデザイン、容器と蓋などパーツの組合せ、色彩と柄—これらの要素の組合せがそれぞれのトレー・容器の用途に最も合致した有用性・付加価値の高い製品となるのです。

耐熱・耐寒・断熱

高温や低温環境でも変形しない／食品の温度をキープ



漏れにくい・ズレにくい形状

食品を安定した状態で運搬できる／型崩れしない

電子レンジに対応

容器に入ったまま食品を電子レンジで加熱できる



見た目を演出する素材とデザイン

美味しさ、鮮度、彩り、味わいなどを正確に表現できる

環境にやさしい

使用後は回収してリサイクルできCO<sub>2</sub>排出を削減できる

オペレーションコスト低減

短時間で商品の陳列が可能／バックヤードでも保管が便利

常に既存製品の改善や新しい機能・付加価値を生み出す作業を続けていますが、今は“安心かん合”と“デリバリー用容器”の開発に力を入れています。安心かん合は「しっかり閉める」と「簡単に開ける」という相反する機能を高次元で両立させた技術であり、販売者の作業効率を上げ、消費者の方には優しいデザインとなっています。また、デリバリー用としては保温性や気密性を高めた三層構造の容器の開発をしています。昨今のデリバリー業界のニーズに応える製品です。時代の流れとともに私たちの業務内容も刻々と変化しています。

執行役員  
生産本部副本部長 西地区担当  
兼 製品開発部ジェネラルマネージャー

村岡 広行



## “現場主義”に 基づいた 消費者と販売者 のための 製品開発

### 販売の現場でニーズを調査

“現場主義”とは製造や販売に関連する貴重な情報は現場にあり、現場を継続して注意深く見ることでニーズに応えるヒントを見つけることができるという考えです。エフピコの営業部門にはお客様への訪問頻度を重視する考えがあり、月に最低でも百回は食品売り場の現場に行くことを社員に推奨しています。製品開発の起点は食品販売の現場をつぶさに観察している営業部門の社員となります。



### 容器開発部がニーズをイメージ化

弁当や惣菜などの食品の製造現場やスーパーマーケットなど販売の現場で吸い上げられた情報は容器開発部へと伝達されます。断片的なアイデアや抽象的なイメージを具体化するために、容器開発部では簡単なソフトで設計図を作成したり、場合によっては紙粘土で容器の模型を作るなどの手作業をすることもあります。現場の「こんな利便性・機能を持つ容器が欲しい」という要望に形という具体性を与える仕事です。



### 製品開発部がイメージを形に

容器開発部がイメージ化した容器の“使い勝手の良さ”などの有用性を設計図へと描き起こし、試作品を作った後に製品として完成させるまでが製品開発部の仕事。設計図の作成からひとつの容器が完成するまでに2カ月から半年ほどの時間を要しますが、エフピコでは毎年約2,000もの新製品を生み出しています。また、製品開発部では素材の安全性チェックなども行っています。



### 営業スタッフが製品を市場に導入

営業スタッフが食品販売の現場を観察することで得たアイデアが製品という形になり、食品販売の現場で活躍する機会を与えられます。毎年新たに市場に投入される製品は数千種類。しかし消費者の方々のライフスタイルは刻々と変化し、それとともに食品トレー・容器に求められるニーズも変わります。より多くの有用性を持ち、付加価値の高い製品をお届けするため、製品開発の努力は続きます。





## 製品開発 PRODUCT DEVELOPMENT

様々な特長を持つ素材を用いた有用性の高い製品

デザインと形状に工夫を凝らし付加価値を高めた製品

### ●マルチFP

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）と、耐寒性を併せ持ちます。断熱性、保温性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品容器の外側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



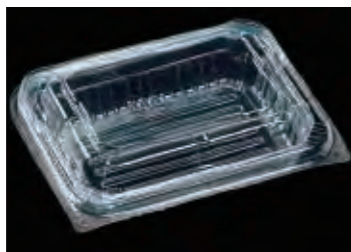
### ●マルチSD

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）に優れている製品です。成形性に優れた非発泡素材のため、複雑でシャープな形状のデザインを施すことができます。



### ●透明PP

耐熱性・耐油性に優れた透明容器。電子レンジで加熱しても変形などに強く、温惣菜をそのまま加熱できます。また、PP素材はMCT油脂等により脆化せず、破損しません。



### ●OPET

PETを縦・横に延伸して分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップ。耐油性に加え透明性を維持したままで従来のAPET素材の耐熱温度を60℃から80℃まで向上させました。



### ●生素材を加熱して出来立てを味わえる容器

生素材をパックして、食べる直前に電子レンジで容器のまま加熱できるメニュー・商品づくりをお手伝いする容器です。食感、味わい、食材のうまみを最大限生かし、出来立ての良さを消費者の皆様にお届けします。



### ●三層構造で美味しさキープの容器

昨今の需要に対応するためにデリバリー用の麺容器として開発した三層構造の容器。上から蓋、麺・具用中皿、スープ用本体になっています。保温性が高くスープも冷めにくい、中皿には蒸気孔があり温め直すのに便利という利点もあります。



### ●メニューの組合せができる容器

ご飯類と汁気の多いおかずを別々に包むことによりそれぞれの美味しさや食感を損ねることなく提供できます。消費者が求める「煮物弁当」という新しいジャンルも実現しました。ご飯とおかずを様々な組み合わせることができ、豊富なメニューを可能にします。



### ●中身がずれない工夫の容器

容器の底に食品を配置しやすくするための枠やガイドの凹凸を付けたタイプです。販売スタッフが陳列する時はもちろん、お買い上げいただいた後の持ち帰り中でも中身がずれにくい容器です。



### ●積み重ねに便利で省スペース化した容器

成形性に優れた非発泡素材を使用し、複雑でシャープな形状のデザインを施すことができる容器です。また積み重ねても場所を取らないという利点もあります。



### ●蓋が閉めやすい容器

密閉性を確保したい食品容器の蓋のかん合部分は長い間解決すべき課題となっていました。しっかりと閉めると開けにくく、閉まりが確実でないと食品の安全性が担保できません。「安心かん合」を謳ったシリーズの容器は閉まった時にパチンと音が鳴り、外れにくく開けやすい構造を実現しています。



### ●食の賑わい・楽しさを演出する容器

刺身用容器のカテゴリーに「美彩シリーズ」と「陶彩シリーズ」が導入されました。これらはまるで本物の器のような高級感が売りです。食べることを少しでも楽しくいつでも賑やかに、というささやかな思いから生まれました。





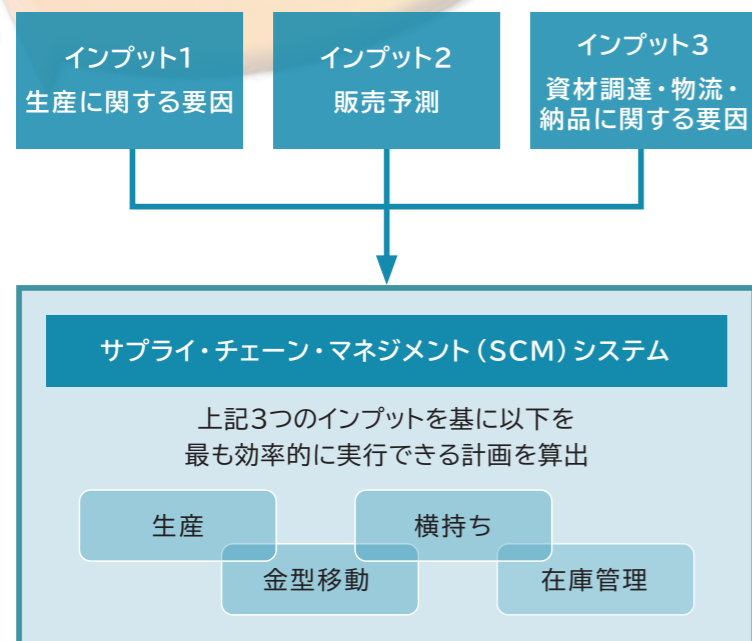
# エフピコのバリューチェーン

MANUFACTURING

# 製造

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開するエフピコのバリューチェーン

大規模な生産工場を全国規模で動かすための緻密な計画とそれを実行するハード（施設）とソフト（人材）を備えて生産を行っています。



### FSSC認証工場生産

- 関東下館第一押出工場
- 関東下館第一成形工場
- 関東下館第二工場
- 中部第一工場
- 中部第二工場
- 中部エコペット工場
- 笠岡第一工場
- 笠岡第二工場
- 神辺第一工場
- 神辺第二工場
- 福山工場 (PS-6)

上記の生産工場では食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるFSSC認証を取得しています。FSSCは国際機関であるGFSI（世界食品安全イニシアチブ）によって、ベンチマーク規格の一つとして承認されています。

エフピコが運用するサプライ・チェーン・マネジメント (SCM) システムは製品製造を最大限に効率化する手法として大いに誇れるものです。その時々インプットする情報や条件で精度の高い効率性を維持できること、生産現場スタッフの経験値によりフレキシブルに対応できることなどがSCMの利点でしょう。今取り組んでいるのは、このシステムの効率性を維持するための労働力の確保、つまり人手不足問題を解決するための自動化です。容器の素材シートを途切れることなく送り出せるようにシートロールを自動で繋げるなど、生産工程の細かい部分も自動化しています。大きな成果を生むのはこうしたことの積み重ねなのです。

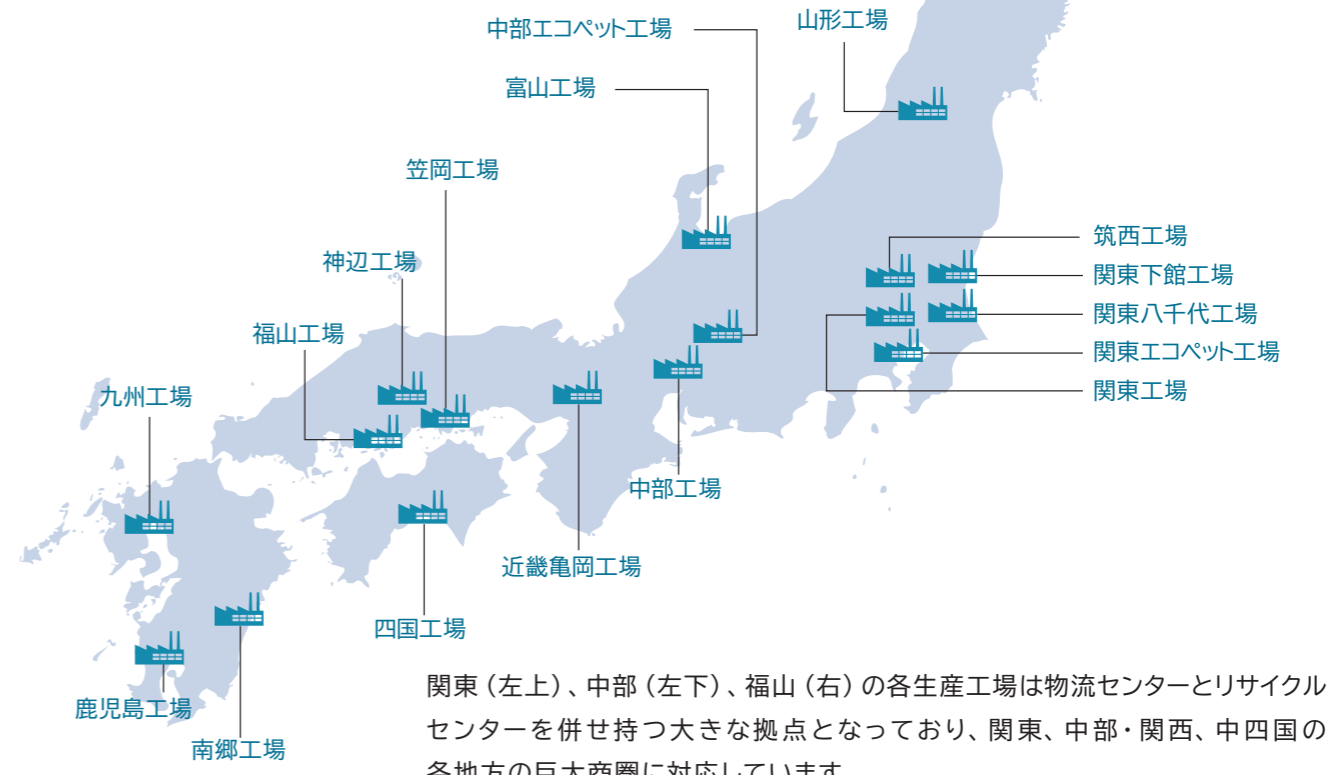
専務取締役 生産本部本部長

永井 信幸



## 安定供給とフレキシブルな対応を可能にする全国展開

関東（左下）、中部（上）、福山（右下）の各生産工場スタッフ。SCMを製造の現場で確実に実践しています。



関東（左上）、中部（左下）、福山（右）の各生産工場は物流センターとリサイクルセンターを併せ持つ大きな拠点となっており、関東、中部・関西、中四国の各地方の巨大商圏に対応しています。





## 製造

MANUFACTURING

### ● サプライ・チェーン・マネジメントシステムによる集中生産管理

エフピコは素材の調達、製品の企画・開発、製造、配送、販売、リサイクルというサプライチェーンのほとんど全てを自社で展開しているため、その全ての活動を考慮したサプライ・チェーン・マネジメント (SCM) システムを構築することができます。この包括的なSCMシステムは製品の生産に関わる全ての業務を最も効率的に計画

立案することができるのです。

いつ頃、どの工場で、どの製品が、どれくらい不足するかを予測してそれに合った生産と物流の計画を立てます。また、お客様からの急なオーダー、予期せぬ市場の需要増加、災害など不測の事態も考慮し、出荷が滞ることなく安定した製品の供給を可能としています。

生産における CO<sub>2</sub> 排出を最低限に

余分に生産しない、必要以上に保管しない

繁忙期で欠品しない、閑散期で余らせない

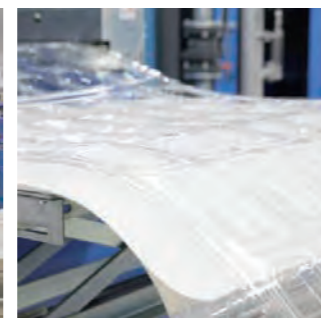
災害など不測の事態にも対応

生産に関係する物流とリサイクル活動も考慮

### 効率化と省エネを追求した生産計画と工程



SCM部門は福山本社にあり、まるでエフピコの全事業を指揮する頭脳のようにオフィスの中央に配置されています。生産の指示は基本的に1週間単位で出され、もし生産量などの調整をする必要が発生すれば、SCM本部と生産工場スタッフの相談により決定します。SCMは素晴らしい頭脳ですが、その計画を実行する現場スタッフとの相互補完により緻密に運用されています。



### ● ロボット化による効率化と人材不足対応

近年の人手不足は製品の安定供給のためには克服すべき大きな課題となっており、生産工場においても様々な工程で可能な限りのロボット化を図っています。1製造ラインあたりのスタッフ数は現在平均約2.5人ですが、これを1人にまで減らすことを目指しています。



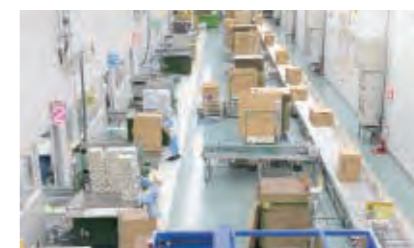
① 裁断後の製品は自動包装機でポリ袋に包み、コンベアで移動。



② アームロボットで袋詰めされた製品を器用に持ち上げて定数を段ボールケースに入れます。



③ ケース詰めされた製品はAGV=無人搬送車に載せられてコンベアまでの短い距離を移動。



④ 箱詰めされた製品は次々とコンベアに載せられて集積所へと集められます。

### ● ものづくりを支える“人づくり”

エフピコには生産工場働く社員の技能レベルアップを目的とした「ものづくりプロジェクト」と呼ばれるプログラムがあり、技術向上のための研修などを行っています。その一環で実施する「技能塾」の研修プログラム修了者には、受講回数やコースの種類によってランク付けされたワッペンが付与されます。このランク付けは生産の現場で働く社員のモチベーションにもなっています。



赤ライン  
セクションリーダー  
サブリーダー



青ライン  
正オペレーター



緑ライン  
準オペレーター



黄色ライン  
見習いオペレーター  
チェッカー

### 障がいのある社員の能力を生かした小ロット生産等への対応

● 障がいのある人材が小規模ロット生産に対応  
ESGのパートでも紹介しましたが、エフピコではたくさんの障がいのある社員が生産の現場で貴重な戦力として働いています。大量生産には適さない小ロット製品や手作業が必要となる付加価値の高い製品の製造を担当しており、デパートの地下食品売り場などで販売している高級志向のお弁当に使われる弁当箱などはその一例です。





LOGISTICS

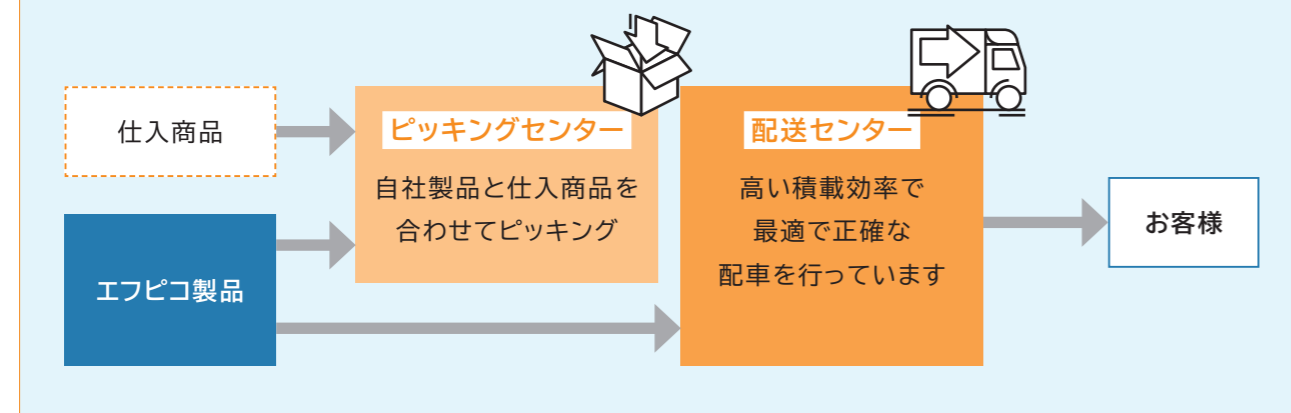
# 物流

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開する  
エフピコのバリューチェーン

自社物流の利点を活かし、必要とされる製品を必要とされる時間までに確実にお届けすることを実践し続けています。

## 倉庫業と運送業を自社で展開するエフピコの物流サービス

■ 倉庫業 ■ 運送業



エフピコでは物流業務をただモノを運ぶだけではない、お客様に高い満足度を提供するサービス業であると捉え、業務の精度を高める努力を続けてきました。音声ピッキングもAGV（無人搬送車）の導入もそうした施策の一環です。そして今私たちに突き付けられているのは人手不足という大きな社会の流れへの対応です。今計画しているのは、業務内容とそれに個別に対応する人材の掘り起こし、拠点の分散化による走行距離の短縮、パレットを使用した輸送への転換による作業効率性向上などです。人手が足りなければ他の何かでそれを補うしかありません。社会的課題に対して自ら積極的に解決策を見出ししていくことも、サービス業の役割であると考えています。



エフピコ物流株式会社  
代表取締役社長  
兼 株式会社アイ・ロジック  
代表取締役社長

小泉 哲

## ピッキングセンター



## ■ ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター（北海道石狩市）
- 東北ピッキングセンター（宮城県大衡村）
- 関東ピッキングセンター（茨城県八千代町）
- 茨城ピッキングセンター（茨城県八千代町）
- 八王子ピッキングセンター（東京都八王子市）
- 新潟ピッキングセンター（新潟県長岡市）
- 中部ピッキングセンター（岐阜県輪之内町）
- 関西ピッキングセンター（兵庫県神戸市）
- 福山ピッキングセンター（広島県福山市）
- 九州ピッキングセンター（佐賀県吉野ヶ里町）

倉庫業と運送業を  
自社で展開し  
お客様のニーズに  
的確に対応

## ■ 配送センター

- 北海道配送センター（北海道石狩市）
- 東北配送センター（山形県寒河江市）
- 関東配送センター（茨城県八千代町）
- 八王子配送センター（東京都八王子市）
- 東海配送センター（静岡県長泉町）
- 中部配送センター（岐阜県輪之内町）
- 関西配送センター（兵庫県神戸市）
- 福山配送センター（広島県福山市）
- 九州配送センター（佐賀県吉野ヶ里町）



配送センター



# エフピコのバリューチェーン

## 物流 LOGISTICS

### 在庫管理と 積荷の移動を 徹底して 効率化

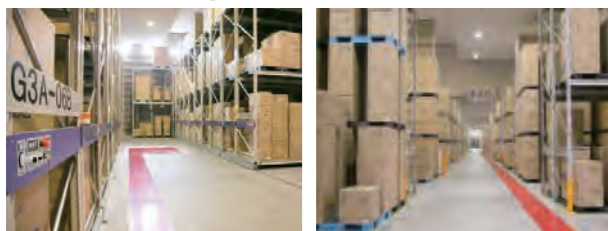
#### ●入庫から倉庫での管理

工場で製造された製品や他の倉庫から輸送してきた製品を一旦倉庫で保管し、出荷のための準備を行います。

#### ●出庫、配送から戻り便まで

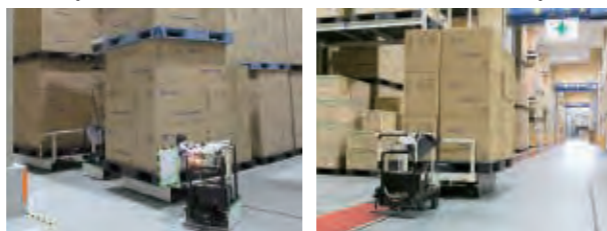
倉庫に保管したケースを出庫バス（荷出しのトラックをつける場所）へと移動するための作業は大きくオートメーション化されています。また配送後に荷台が空になったトラックもリサイクル事業のために活用しています。

#### ロケーション マネジメントシステム



限られた倉庫のスペースを最大限に活用するためのフレキシブルな空間活用システム。ケースの設置場所を固定せず、空いたスペースを順番に利用していきます。グループ全体で300万ものケースを保管しているエフピコにとっては必要不可欠となっています。

#### AGV (Automatic Guided Vehicle)



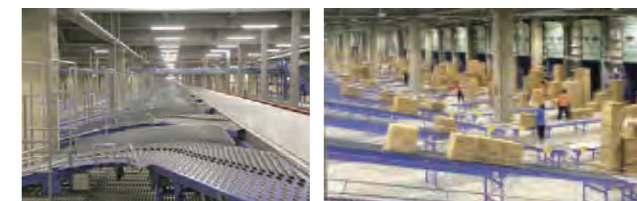
AGV（無人搬送車）の導入は2017年に始まり、現在では5つの配送センターで運用されています。AGVは床に引かれた線路代わりとなる黒い1本の線の上をあらかじめプログラミングされた動作通りに動きます。AGVの導入により倉庫内のフォークリフトの走行距離は3分の1となり、人手不足に大きく貢献しています。

#### クロスドックセンター



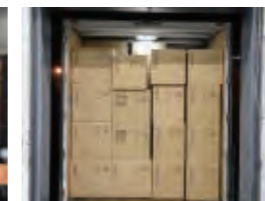
大規模物流拠点では倉庫同士をソーターで連結し、出荷の手間と時間を効率化しています。

#### ソーターシステム



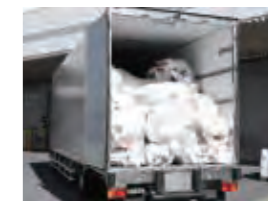
数十カ所もあるバスそれぞれに集める荷物を自動化しています。

#### 積み込み・納品



トラックの荷台スペースを最大限に活用できるようにケースサイズや積み込み方法を工夫しています。

#### 使用済み容器回収



配送後の空荷台にスーパーマーケットなどに集められた使用済み容器を積んで帰ります。

#### ①耳から指令を受ける

ピッキングを行うスタッフはまず最初に、作業をする場所（エリア）についての指令をヘッドセットを通して音声で受け取ります。次にそのエリアの中で集める物品がカテゴリー（広い範囲）から個別（狭い範囲）へと順に指定されていきます。



### ミス発生率 ほぼゼロの 高効率 音声ピッキング システム

#### ②マイク（口頭で）指令を確認・物品の取り集め

スタッフは耳から受けた指令をその都度マイクを通して確認していきます。もし発した言葉が指令と異なっていれば、エラーとなってやり直すことになります。このように指令を確認しながらひとつずつ物品を移動棚に集めていきます。



#### ③検品・パッキング

移動棚に集められた物品（1セット）は検品スタッフによりひとつずつバーコードでチェックされます。セット内容に間違いがないかの確認です。間違いがなければそのセットは梱包され出荷エリアへと移動されます。



“お客様が必要とされる時に確実にお届けする”ことを実践し続けるため、様々な施策と努力を行っています。

### 配送時間の 正確性を追求した 様々な施策

#### ルートプランナー

生産工場から倉庫、倉庫間の横持ち移動、倉庫からお客様への配送などの配車と配送ルートを決めるシステムです。



#### R・Dチェックシステム

R・Dは“リアルタイム・デリバリー”の略。QRコードを使い配送開始から納品終了までの全ての状況をリアルタイムでモニターします。蓄積された配送の実績データはルートプランナーの正確性向上のために活用されます。また、配送状況は担当営業スタッフが確認することもできます。



#### 非常用発電設備

自然災害などの非常時でもスーパーマーケットなどで販売する食品のための容器は必要不可欠です。全国21カ所の物流拠点に非常用発電設備を設置し、72時間の電力供給を可能にしています。





SALES

# 販売

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開する  
エフピコのバリューチェーン

食品販売の現場に立ち続け、常にお客様のニーズに応える製品の提案について考えています。

「答えはお客様のところにある」という現場重視主義を貫く販売哲学



### ●生きた情報を得るために食品販売の現場をリアルタイムで観察

“お客様のところへ行け!必ず道は開ける”という言葉は創業者である小松安弘が営業活動にあたっての信条とした考え方です。食品トレー・容器は食品の販売のために使われるものですから、その現場であるスーパーマーケットやコンビニエンスストアに出向き、そこで起こっている様々なことに目を光らせて生きた情報を得るべきであるということです。売る側が商品を並べて販売をしている様子、そして買う側が商品を選んで購入をしている様子。それら全てにより良い製品を作って売ることのヒントがあるとエフピコは考えています。

### ●現場で聞くお客様からの生の声

食品販売の現場では見ているだけでなく、お客様であるスーパーマーケットのスタッフの方々などとのコミュニケーションを積極的に行っています。現場では何に困っていて、どんな工夫が望まれているのかなど、変化の激しい現在の社会では食生活上のニーズも常に変化しており、その対応についてお客様と一緒に考えるというのがエフピコのスタンスです。



### ●売り場だけでなくバックヤード作業も注視

お客様の悩みにはバックヤードにおける食品販売の準備に関わる事柄も多くあります。人手不足への対応、忙しい時間帯での短時間作業など販売準備の効率化のニーズは近年特に大きくなっています。お客様の声を聞き、製品を通してこれらの課題の解決を常に模索しています。



## 課題解決

## 訪問頻度

## 情報共有

### エフピコにおける販売のキーワード

### 100分析

### 「エフピコフェア」

### 売り場提案

現場に何度も足を運ぶのはもちろんのこと、大切なのは明確な意図を持ってお客様を訪問することです。最近では“See-Think-Plan-Do”というPDCAサイクルになぞらえた標語を用いています。「見て、考える」は分析ということですが、分析の際の指針として100の項目を設定しています。個々の営業スタッフが現場を詳細に分析することによって気づきが誘発され、現場が抱える課題への解決策や面白いアイデアがたくさん出てくるのです。そしてこれらのアイデアを全員で共有してブラッシュアップし、共通の認識のもとにお客様に最善の策を提案しています。



専務取締役  
営業本部本部長

高橋 正伸



## 販売 SALES

### お客様視点に立ち エフピコ製品を 使ったの売り方や 売り場を提案

### 「エフピコフェア」 の開催という ユニークな販売 コミュニケーション



#### ●エフピコ社内で 開催するお客様への 「売り場提案会」

売り場提案会ではスーパーマーケット様を自社にお迎えし、食品販売の売り場づくりに関する提案を行っています。食品の消費トレンドの分析、売れている商品のための売り場構築、そしてそうした売り場のためのエフピコ製品の提案が主な内容。東京本社や大阪支店での大規模な提案会では100人を超える場合もあり、1年を通して定期的に開催しています。

#### ●食品メーカー様との“価値共創型営業”（“チームX”）

様々な形で提案型セールスを行っているエフピコですが、それをクリエイティブなスタイルで実践しているのが価値共創（チームX）型営業です。エフピコ単体ではなく他社様と一緒に創造して、よりクリエイティブな営業活動を展開しています。その典型的な例は食品メーカー様とのコラボレーションです。惣菜パンダ様や調味料メーカー様とともに“売れるメニュー”を企画し、エフピコ製品の利点を活かして商品化するという取り組みです。

#### 調味料メーカー様と共創したサラダの主菜化“パワーサラダ”の開発例



いちごとスモークサーモンの  
パワーサラダ



厚切りベーコンとグリル野菜の  
パワーサラダ



エビマヨとカリフラワーの  
パワーサラダ

メニューの開発テーマと商品イメージを最も適切に表現する容器を使い、中身も見た目も魅力的な商品を創り上げます。さらに開発した商品の陳列方法も一緒に考案。



共同開発した商品は「エフピコフェア」でも多数展示しています。



エフピコフェアは、年間を通して現場で接したお客様の声（課題・問題・成功事例・未来予測）を容器・サービスを通じて解決・提案するエフピコ最大のプレゼンテーションです。毎年3月、東京ビッグサイトで約15,000人のお客様をお招きし、3日間にわたり以下のような展示内容でお客様の期待にお応えする提案を行っています。フェアでお客様と濃密なコミュニケーションを取り、効率的な販売の機会としています。

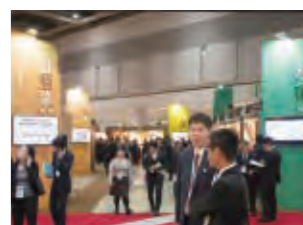
#### ●売り場再現

展示会の会場内にスーパーマーケットなどの売り場を再現します。商品を実際に陳列することで、具体的なイメージを持っていただけます。



#### ●分野ごと展示

精肉、鮮魚、温惣菜、冷惣菜、寿司、米飯など分野ごとの展示によりお客様は効率的に展示を見て回ることができます。



#### ●試食

エフピコ製品を使うことによる食品の美味しさを実際に味わっていただくための試食は必要不可欠な施策です。



#### ●プレゼンテーション

是非知っていただきたい製品、理解していただきたいアイデアなどはプレゼンターによる熱のこもった説明で訴求します。



#### ●自由撮影

会場内の展示などは全て撮影OKです。提案するアイデアをお客様に持ち帰って実践していただくことがエフピコフェアの趣旨でもあります。



#### ●音声ガイド

来場したお客様の担当営業スタッフが不在でアテンドできない場合などのために、QRコードを読み込むことによる音声ガイドを用意しています。



本年度のエフピコフェアは新型コロナウイルス感染症の影響により急遽お客様をお迎えしない形となりました。展示自体は用意し、主に社員の研修の場として活用した他、映像撮影をして後日お客様にお見せすることとしました。ご興味のある方はお近くの営業所までご連絡いただけますようお願い致します。





RECYCLING

# リサイクル

食品トレー・容器の製造・販売・リサイクルを展開する  
エフピコのバリューチェーン

エフピコのバリューチェーンを完成・循環させるのが使用済み容器を環境対応製品へと生まれ変わらせるリサイクル工程です。



使用済み発泡トレーのリサイクル率はまだ約30%。エフピコは使用済み製品の回収に力を入れています。

エフピコの使用済みトレー・容器の回収拠点は昨年度の9,260から9,390カ所に増えています。プラスチックごみ問題が大きな話題になっていることもあり、消費者の方々の環境への意識も高まってきているようです。それほど急速に使用済み製品の回収量が増えても、私たちリサイクル部門としては対応をしていかなければなりません。そのための施策として現在、使用済みトレー・容器の選別工程においてロボット化やAIの導入による作業時間短縮を計画しています。また物量を平均化して作業効率を上げるための倉庫スペースの確保もひとつの解決策です。今できることを一つひとつ実行し、社会が求める声に応えていきたいと考えています。



執行役員  
リサイクル部ジェネラルマネージャー

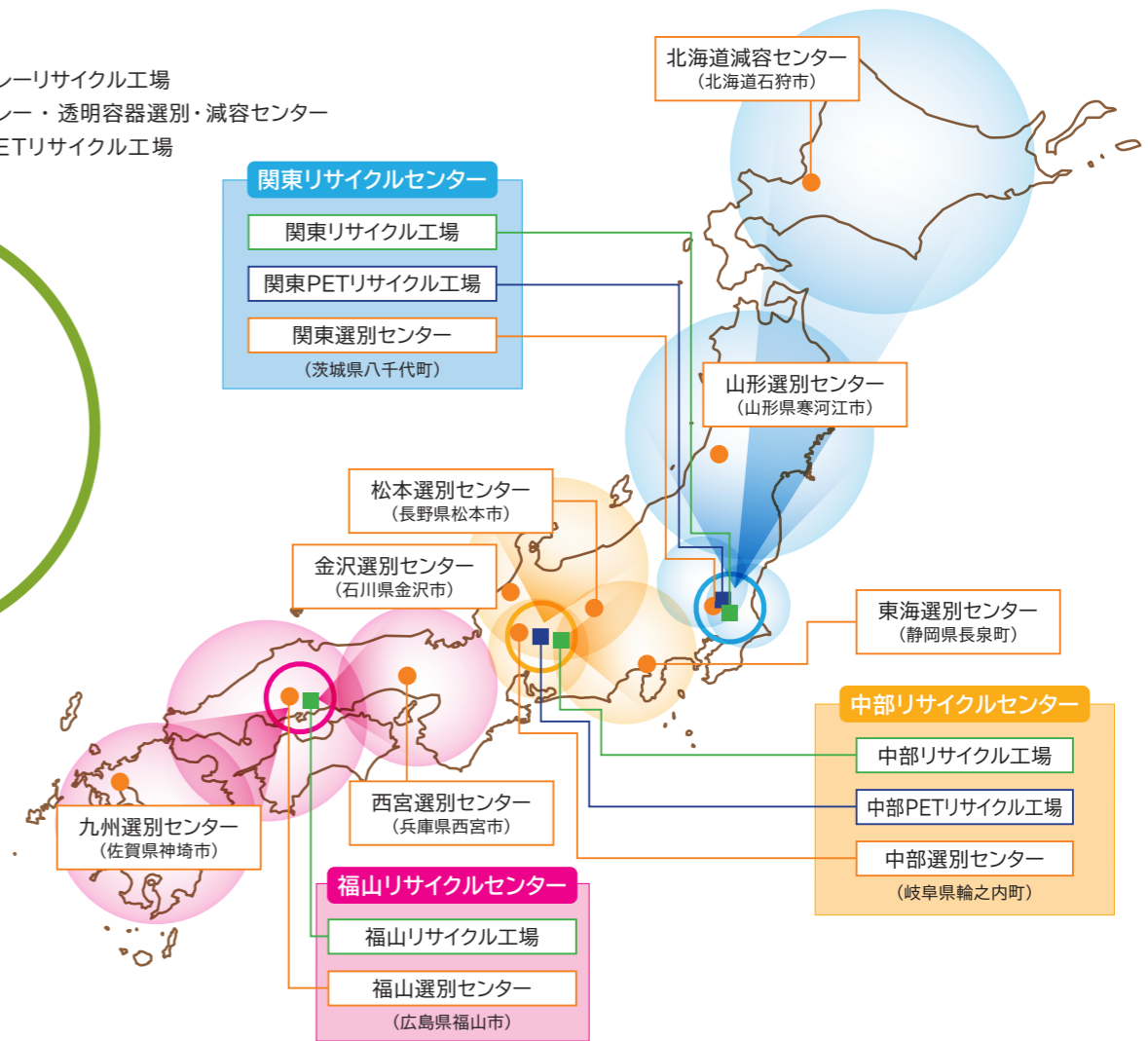
兼田 英寿



全国で回収された使用済みトレー・容器は各地の選別センターなどで発泡トレーと透明容器ごとに選別されて関東、中部、福山のリサイクル工場へと搬入されます。この写真は福山選別センターに持ち込まれた使用済み発泡トレー。隣接のリサイクル工場で再び製品へと生まれ変わります。

## 全国展開の リサイクル ネットワーク

- トレーリサイクル工場
- トレー・透明容器選別・減容センター
- PETリサイクル工場





## リサイクル

RECYCLING

4者一体の  
エフピコ方式  
リサイクル

消費者、スーパーマーケット、包材問屋、そしてエフピコの4者が一体となって展開するエフピコ方式のリサイクルは約30年前にスタートしました。以来、この運動に賛同していただける方の輪が大きくなり、現在では全国に約9,400の回収地点があります。2012年からは使用済みPETボトルを透明容器へとリサイクルする事業も開始。それでも使用済み発泡トレーの回収率は約30%に留まっています。リサイクル運動の輪をもっと大きくし、もっとたくさんの環境対応製品をつくりたいというのが私たちの願いです。



### 洗浄・乾燥

容器を捨てずに食後の汚れた食器を洗うついでに一緒に洗浄して乾燥し回収ボックスに持ち込みます。



### 回収

全国約9,400カ所の回収拠点で使用済みの発泡トレーと透明容器・PETボトルを回収していただいています。



### 保管・運搬

スーパーマーケットなどへ納品した後に使用済み容器を回収し一時保管の後、エフピコのリサイクル施設へと運搬。



### 再生

エフピコの選別センターとリサイクル工場へと持ち込まれ、いくつもの工程を経て新しい製品へと再生されます。



### 消費者の皆様



スーパーマーケット様など



包材問屋様



エフピコ

### 使用

購入した容器に入った食品を調理、加工、盛り付けして豊かな食卓が出来上がります。



### 販売

精肉、鮮魚、惣菜、弁当、青果などの食品を容器に入れ、陳列して販売。



### 配送

エフピコ製品を仕入れた包材問屋様がスーパーマーケットやコンビニエンスストアへと配送。



### 生産

全国18カ所の工場生産。リサイクルした素材を使ったエコ対応製品もたくさん製造しています。



人材データサマリー

従業員の構成 (2020年3月末現在)	男	女	合計
従業員数	606	279	885
平均年齢	43.4	34.2	40.5
30歳未満	114	107	221
30～39歳	127	99	226
40～49歳	165	55	220
50～59歳	153	14	167
60歳以上	47	4	51
勤続年数	15.5	10.7	13.9
連結従業員数	3,459	1,025	4,484
外国人従業員数	0	1	1

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2019年度	0	16	0	0	1	17

新卒入社者の定着状況	男	女	合計
2017年4月新卒入社者数	17	16	33
2020年4月在籍者	16	14	30

管理職に占める女性比率	女	男	女性比率
	23	319	6.7

障がい者雇用	2017年度	2018年度	2019年度
実人数 (人)	377	359	358
障がい者雇用率 (%)	13.78	13.6	13.3

ワーク・ライフ・バランス	2017年度	2018年度	2019年度
有給休暇取得率 (%)	39.5	51.7	53.6
一人あたり月平均残業時間	18.9	10.0	9.8
産休取得者数 (人)	17	25	25
育休取得者数 (人)	22	16	28
育児休業復帰率 (%)	86.7	100.0	92.3

環境データサマリー

製造部門2019年度データ (年間生産値)

INPUT	エネルギー	電力	368,421,956kWh
	化石エネルギー	84,911,391MJ	
	水資源	上水	506,259m <sup>3</sup>
		地下水	100,450m <sup>3</sup>
		工業用水	89,747m <sup>3</sup>
	原料 (樹脂類他)	176,879t	
	副資材	段ボール	35,371t
		包装ポリ	3,068t
	その他	潤滑油	16,504L
		シンナー	35,602L
紙		2,736,500枚	

OUTPUT	製品	製品生産重量	204,374t
	出荷トラック台数	159,096台	
	環境汚染物質	廃棄物	28,049t
		煤塵	114kg
		NOx	5,806kg
		BOD	11,079kg
		COD	11,139kg
SS	6,345kg		

物流部門2019年度データ (年間生産値)

INPUT			
エネルギー	電力	18,114,086kWh	
	化石エネルギー	2,599,316MJ	
水資源	上水	24,402m <sup>3</sup>	
その他	紙	9,389,410枚	

OUTPUT	
廃棄物	461t

オフィス部門2019年度データ (年間生産値)

INPUT			
エネルギー	電力	2,916,776kWh	
	上水	3,202m <sup>3</sup>	
その他	紙	5,373,500枚	

OUTPUT	
廃棄物	230t

財務サマリー

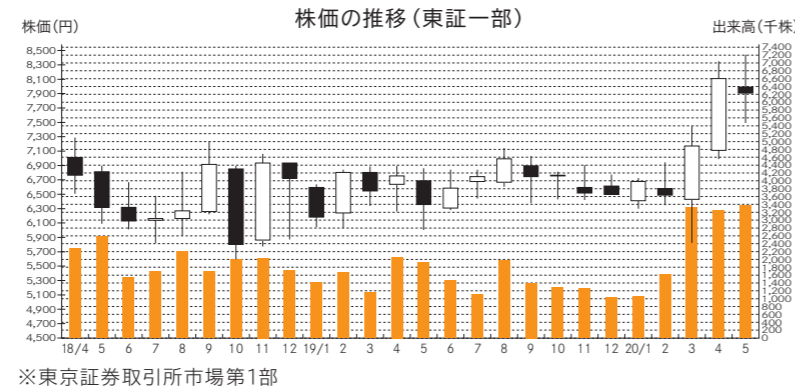
回次		第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高	(百万円)	170,292	172,858	173,580	181,171	186,349
経常利益	(百万円)	14,027	15,742	13,548	14,861	16,274
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	9,294	10,953	9,178	9,901	10,777
包括利益	(百万円)	8,900	11,440	9,806	9,332	10,461
純資産額	(百万円)	91,591	99,721	106,219	112,198	119,301
総資産額	(百万円)	209,053	219,481	244,147	249,332	242,497
1株当たり純資産額	(円)	2,202.56	2,403.52	2,560.18	2,703.33	2,872.14
1株当たり当期純利益金額	(円)	224.54	264.86	222.01	239.51	260.71
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	43.6	45.3	43.4	44.8	49.0
自己資本当期純利益率	(%)	10.6	11.5	8.9	9.1	9.4
株価収益率	(倍)	21.4	19.6	31.4	27.3	27.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	20,832	25,912	13,974	25,510	27,770
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△17,923	△21,932	△23,656	△17,109	△10,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,530	△924	7,197	△4,908	△15,643
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	15,089	18,144	15,659	19,151	20,288

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 財務サマリー（続き）

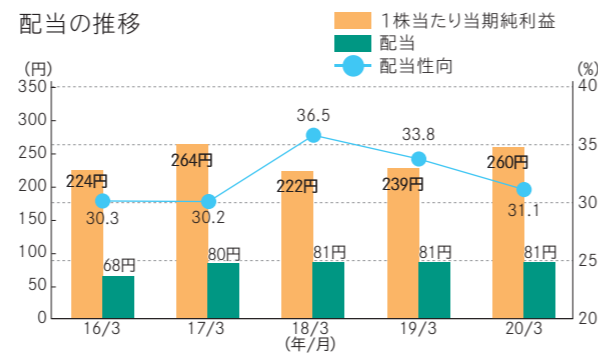
### 企業価値向上

「もっとも高品質で環境に配慮した製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり当期純利益330円を目標としています。



### 継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆様への利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり81円(中間配当金40円、期末配当金41円)の配当を実施しました。



## 第三者によるコメント



竹ヶ原 啓介 様 株式会社日本政策投資銀行 執行役員 産業調査本部副本部長  
兼 経営企画部サステナビリティ経営室長

1989年一橋大学法学部卒業、同年日本開発銀行(現(株)日本政策投資銀行)入行。フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長等を経て2017年より現職。環境省「中央環境審議会」臨時委員、経済産業省「TCFDコンソーシアム企画委員会」委員など公職多数。

新型コロナ禍を経て、ポスト/ウィズ・コロナの社会は、これまでとは大きく変質するでしょう。文字通り持続可能性の危機に直面した以上、「サステナビリティ」が重みを増すのは確実です。環境面に加え、安全かつ安定した雇用基盤という役割が企業の非財務的な価値として一層重視されるでしょう。ESG投資の主流化が進む中、企業には、こうした要請に応える成長戦略が求められます。この観点からも、エフピコさんは際立った存在です。「4者一体」リサイクルシステムは、欧州発のサーキュラーエコノミーの先駆けといえ、これを気候変動対策とも両立させている点は際だった成果です。近時、社会問題化しているプラスチックも、「不適切な使い方」が問題なのであり、環境に負荷を与えずに、この素材の強みを活かせるビジネスモデルを持っていることは、中長期的にみて貴社の企業価値にプラスだと考えます。更に、障がい者を積極的に雇用し、こうしたシステムをその活躍の場に行っている点からも、環境価値と社会価値を多面的に追求する姿勢が顕著に感じられます。



福山市総合体育館のネーミングライツをエフピコが取得し、「エフピコアリーナふくやま」として誕生した施設が2020年3月23日にオープンしました。新型コロナウイルスの影響によりオープニングイベントが中止になり、開館も3日遅れてのスタートとなりました。

この感染症は世界中で猛威を振り日本国内にも社会的、経済的に大きな損害を与えましたが、その一方で外食を控えて自宅に籠ることを余儀なくされた方々による買い物やデリバリー需要などにより、たくさんの食品容器が必要とされました。私たちとしては複雑な心境ですが、自分たちが製造・販売している製品が必要とされたことの責任を改めて感じました。本レポートでも食品容器の有用性を特集として取り上げましたが、社会に必要とされ人々の暮らしの中で役に立つ製品をこれからもつくり続けていきたいという気持ちを新たにしました。

「エフピコレポート2020」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

2020年6月  
環境対策室 ジェネラルマネージャー  
富樫英治



エフピコレポート2020  
発行日：2020年6月

#### 編集方針

エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載する心がけました。  
CSRに関するレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2018年)」を参考にしました。  
対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日  
対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先 株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オクタワース(総合受付36階)

TEL 03-5325-7809 FAX 03-5325-7811 E-mail: Env-FP@fpco-net.co.jp ホームページ: <https://www.fpco.jp/>

# FPCO Report 2020

To be a company that links  
people with people, people with nature,  
and companies with society.



福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15 TEL (084) 953-1145  
東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F TEL (03) 5320-0717  
大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F TEL (06) 6441-2468  
営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

■ホームページ <https://www.fpcoco.jp/> ■eメール [Env-FP@fpcoco-net.co.jp](mailto:Env-FP@fpcoco-net.co.jp)

